

**平成29年度
事務事業・施策評価シート
実績入力マニュアル**

【抜粋版】

**平成30年1月
総務企画局企画調整課**

□様式4 「施策評価シート」の入力方法について

【2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析】

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析			H29年度	単位等
実施計画に位置付けた指標名（指標の説明）			実績	
1	空き巢等の刑法犯認知件数	10,400	9,000	必須入力
	指標の説明	各年の「犯罪統計資料」（神奈川県警察公表）の「刑法犯罪名別市区町村別認知件数」の合計値 ※年度ではなく暦年	115.6%	
	指標の達成度	4	a	増減
2	消費生活相談の年度内完了率	98	99	必須入力
	指標の説明	他機関相談窓口の紹介件数と継続処理案件（年度内（次年度の6月までに処理を終えられなかった案件）の件数以外の相談対応件数（8,564件）/消費生活相談件数（8,766件））※H29年度実績	120.0%	
	指標の達成度	4	a	増減

見込の場合は、セルを黄色で塗りつぶす。実績が判明していない場合は、「〇月頃判明」など入力する。

【達成度のイメージ】
 a: 目標値以上
 b: 現状値(個別設定値)以上 目標値未満
 c: 60%以上 現状値(個別設定値)未満
 d: 59%以下 などを自動判定

変更点 「指標の説明」欄で根拠となる数字を記載している場合は、出来る限り最新の値とし、どの時点の数字か、分かるようにしてください。例：〇〇〇（〇〇件）※H29年度実績 など

実績値の入りに伴い、「達成率」及び「指標達成度」が自動判定される。

① 必須入力 「成果指標」のH29年度実績値

設定した各成果指標の平成29年度実績値を入力する。見込みの場合は、セルを黄色で塗りつぶす（※実績がその時点で判明していない場合は、「〇月頃判明」など入力）。実績値の入りに伴い、「達成率」及び「指標達成度」が自動表示される。

※企画調整課で実施している施策レベルの市民アンケートの結果については、別添7を御覧ください。

2 数値で把握できる補足指標（指標の説明）		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	防犯灯の累計設置数	実績	16,860	17,172	19,000(見込)	件
指標の説明					(1) 限定入力	
2	自警団への防犯パトロール用ベストの支給	実績	7	6	10	件
指標の説明					(2) 限定入力	

② 限定入力 「数値で把握できる補足指標（指標の説明）」

(1) 成果指標以外に施策の成果を補足するものとして、施策の配下の事務事業において、効果が高く定量的に表すことができる実績を極力入力する（特に成果指標の数
変更点 が1～2の施策は必須入力）。また、指標の説明は簡潔に入力する。

(2) (1) で記載した数値で把握できる実績（見込みの場合は数字の後に「見込」を掲載）を入力する。※補足指標は、以下の手順により、最大5個まで入力できます。

補足指標の数を追加する場合
 補足指標の最終行とその次の行を選択し「右クリック」→「再表示」

補足指標の行を再表示した後不要な行を、非表示にする場合
 不要な補足指標の行を選択し「右クリック」→「非表示」

68 自警団への防犯パ

69 指標の

76 指標等の成果分析

再表示(L)

➔

65 その他数値で把握

66 防犯灯の累計設置

67 指標の

68 自警団への防犯パ

69 指標の

70 指標の

71 指標の

72 指標の

73 指標の

74 指標の

75 その他

非表示(H)

3

定性的な成果
(取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)

●かわさき健康福寿プロジェクトにおいては、居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)等に対する自立支援に重点を置いたケアに関する講習会や、取組事例発表会を開催しました。また、プロジェクトの参加事業所数が平成27年度の137事業所から246事業所まで増加するなど、事業の普及・啓発に一定の効果があったものと考えます。さらに、本市が独自に行った要望がきっかけとなり、国における議論に拍車がかかると、一定の進捗があったものと考えます。

必須入力

③ **必須入力** 「定性的な成果」(←今年度から**必須入力**) **変更点**

①「実施計画に位置づけた指標」の成果を補足するものとして、事業を進める中で得られた数値では測れない定性的な成果(様式1の「取組の実績等」や「施策への貢献度」を参考)があれば、具体的な事例を織り交ぜながら入力する。この項目の活用については、川崎市政策評価審査委員会からも強く要望されているため、必ず記載する。

4

指標等の成果分析
(指標の目標値達成を阻む外的要因を含めて記載)

●スポーツ観戦率については、平成28年度は川崎フロンターレの年間を通じた好成績、リオ五輪開催により、Jリーグホームゲームやゴールデンランプリ陸上の観客動員数は好調(対前年増)であったにもかかわらず、アンケート結果は対前年微減となりました。年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、40・50代で積極的回答の割合が高く、区別では、中原区において積極的回答の割合が高く、一方、多摩区、麻生区において、積極的回答の割合が低くなっています。
●スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合について、具体的に取り組んでいる活動としては、野球やサッカーのコーチ、地域の運動会への参加などの回答が見受けられます。消極的(活動を知っているが、活動にかかわったことはない(興味はある))の中で多い回答として、時間や機会がなく参加できない、参加の仕方がわからないなどの意見が見受けられます。年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、60・70代で、積極的回答の割合が高く、区別では、多摩区、高津区において、積極的回答の割合が低くなっています。

必須入力

④ **必須入力** 「指標等の成果分析」

上記①の「実施計画に位置づけた指標」について、成果の分析を具体的に入力する。

ポイント 特に、指標等の数値が上がっていない(目標に達していない)場合は、外的要因等を含めて記載し、なぜ成果が上がらなかった(目標に達しなかった)のかなど、達成状況を客観的に分析してください。

※上記③及び④の項目については、総合計画の外部評価を行う「**川崎市政策評価審査委員会**」から、次のとおり「**定性的な成果欄の積極的な活用**」及び「**しっかりとした指標等の成果分析**」等が指摘されていますので、意見を踏まえた記載をお願いします。

重要 川崎市政策評価審査委員会からの意見(抜粋)

- ✓ **施策の効果を幅広く把握するための手法の検討**(←上記③に関連)
施策に設定した**成果指標**だけでは、現在の取組の**効果を把握しきれしていない**ものが見受けられたことから、現在進めている取組の効果を**定量的・定性的な面から幅広く把握**しながら、**施策の達成状況を確認していく必要がある**と感じます。そのためには、現在の施策評価シートにおいて、補足的に記述することとしている**定性的な成果の欄**を、**定量的な成果の欄と同等の扱いにするよう改善**を行うなど、**より幅広く効果を把握できる**評価シートとしていくことを期待します。
- ✓ **効果的にPDCAサイクルが機能する進行管理・評価の実施**(←上記④に関連)
計画策定時の現状値から下がった**成果指標**や**目標値に達していない成果指標**については、まずは**その指標を補う代替的な効果を示す**とともに、**現状から数値が悪化した又は目標値に達していない原因をしっかりと分析し、課題を明確化**することで、今後の取組改善につなげるなど、効果的にPDCAサイクルが機能する**進行管理・評価**としていくことを**強く望みます**。

【3 施策を構成する主な事務事業の評価】

⑤	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)			事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額				
					H27年度	H28年度	H29年度			
1	10201010 防犯対策事業	その他	市民、事業者、地域の防犯関連団体、警察、行政等と協働・連携し、犯罪のない安全・安心な川をめざした取組を推進します。	(1) 必須入力 ●自主防犯活動団体への支援 ●安全・安心まちづくり推進協議会を中心とした地域団体等による地域のパトロールの実施(毎月〇回実施) ●防犯灯のLED化促進に向けたESCO事業による防犯灯交換工事の実施(〇灯交換) ●安全・安心まちづくり対策員による防犯診断・パトロールの	59	638,138	642,520	(2) 必須入力	(4) 必須入力	(5) 必須入力
2	2(13)市民サービス等の再構築 H27年度 予算額 593,351 決算額 555,917 H28年度 予算額 638,138 決算額 505,387	その他	6 地域安全施策の更新や重点区画を守るため、	●路上喫煙防止指導員による巡回活動指導、啓発等の実施 ●ポイ捨て禁止と道 (〇回実施) 実施結果 (Do) 上記「今年度の事業の取組内容」に示す達成度	13,376	1,492	7,565	(3) 必須入力		
3	客引き行為等防止対策事業	その他	商店街等を訪れる市民等が安心して公の場所を利用することができるよう、「客引き行為」等の防止に向けた取組を進めます。	取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容)に示す達成度 ●客引き行為等防止指導員等の巡回活動(〇回実施)による指導、啓発(パンフレット〇〇部配布)等の実施	1,993	1,825	1,708			

⑤ 必須入力 「施策を構成する主な事務事業の評価」

(1) 主な取組の実績

様式1事務事業評価シートの取組内容の実績等に記載した内容のうち、**施策の直接目標や指標に寄与した取組実績を簡潔に入力**する。

ポイント 実績の入力は、文頭に「●」を入力し、**体言止めで、枠内に納めてください。**
 特に、**各取組のうち定量的(参加者数や実施回数等)に実績を示せるもの**については、**入力した取組の最後にカッコ書きで数量を示してください。**
例：●△△△研修会の実施(参加者〇〇〇名) ←**体言止め**

(2) H28年度決算額

様式1の予決算のH28年度決算額を転記する。

(3) 事業の達成度

様式1で選択した「事業の達成度」と同じ区分を、プルダウンから選択する。

(4) 施策への貢献度

様式1で選択した「施策への貢献度」と同じ区分を、プルダウンから選択する。

(5) 今後の事業の方向性

様式1で選択した「今後の事業の方向性」と同じ区分を、プルダウンから選択する。

※ 総合計画に**非掲載の事務事業**で、**事業の達成度が4のもの**については、次ページのとおり、必ず掲載してください。

【 4 施策の達成状況】

4 施策の達成状況

6

施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	(2) 必須入力 達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	(1)	

相違

エクセルの印刷範囲外

指標の達成度	平成29年度						平均点	施策達成度仮判定	C
	a	b	c	d	合計	平均点			
	3点	2点	1点	0点					
指標の達成数の数	0	1	2	0	3		1.333		
指標の点数	0	2	2	0	4				

施策の達成度	指標の達成度の平均点
A 順調に推移	3以下～2.5以上
B 一定の進捗がある	2.5未満～1.5以上
C 進捗が遅れている	1.5未満～0.5以上
D 進捗は大幅に遅れている	0.5未満

相違(仮判定の方が進捗が悪い)がある場合は、次のポイントを確認し、施策における成果をしっかりと示してください。

⑥ 必須入力 「施策の達成状況」

(1) 施策の達成状況について、指標等の成果を中心に、施策を構成している事務事業の評価(達成度)等から、総合的に判断し、次の4つの区分から選択する。

ポイント 「施策の達成状況区分」と「指標達成度(自動判定)」の結果については、基本的に連携しています。よって、下の表のとおり**施策の達成状況区分の考え方**についても、**指標達成度の自動判定の考え方が前提**になり、エクセルの印刷範囲外に指標達成度に基づく**施策の達成状況の「仮判定」と相違**(仮判定の方が進捗が悪い)がある場合は、②「**その他数値で把握できる補足指標**」や③「**その他定性的な成果**」等で、**しっかりと成果を示すこと**で、説明責任を果たしてください。

施策の達成状況区分の考え方

施策達成状況区分	区分の説明
A 順調に推移した	目標を達成した
B 一定の進捗があった	目標未達成のものがあるが一定の進捗があった(目標と現状の間)
C 進捗が遅れた	現状を下回るものが多くあった
D 進捗は大幅に遅れた	現状を大幅に下回った

指標達成度の自動判定の考え方

指標達成度	区分の説明
a	目標値以上
b	現状値(個別設定値)以上 目標値未満
c	目標値の60%以上 現状値(個別設定値)未満
d	目標値の59%以下



【参考】指標の達成度と施策の達成状況の関係

①指標の達成度の点数化		事例1		事例2		事例3		事例4	
指標の達成度	点数	指標の数	合計点	指標の数	合計点	指標の数	合計点	指標の数	合計点
a	3	2	6	1	3	0	0	0	0
b	2	1	2	1	2	1	2	0	0
c	1	0	0	1	1	2	2	1	1
d	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		3	8.00	3	6.00	3	4.00	3	1.00
平均点(合計点÷指標の数)→		2.67		2.00		1.33		0.33	

②施策の達成状況の仮判定基準

施策の達成状況	指標の達成度の平均点
A 順調に推移した	3以下～2.5以上
B 一定の進捗があった	2.5未満～1.5以上
C 進捗が遅れた	1.5未満～0.5以上
D 進捗は大幅に遅れた	0.5未満

(2) (1) で選択した区分を選んだ理由を入力する。

ポイント ①「成果指標」や②「その他数値で把握できる補足指標」、③「その他定性的な成果」の結果を中心に、事務事業の評価等も含めて、「施策の直接目標」等に対して、どのような成果をもたらしたのかなどの視点で、進捗状況区分を選択した理由を具体的にしてください。特に、⑥「施策の進捗状況」で、施策の進捗状況区分と仮判定の結果に相違があった場合（仮判定Cで進捗状況区分をBとした場合など）は、進捗状況区分を変更した理由（「○○成果指標は現状よりも悪化しているが、他に○○の成果があった」など）をしてください。

変更点 昨年度の実績入力時からの変更点

※「**3 施策を構成する主な事務事業の評価**」において、「**達成度4の事務事業**」がある場合又は「**達成度3としていても一部に大きな遅れがある事務事業**」は、**必ず「4 施策の達成状況」に「遅れている事務事業名・遅れた理由・遅れている部分」**を簡潔に記載してください。

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
1	10101010 防災対策管理運営事業	その他	地域防災計画や地震防災取組の推進等、市の災害対応力の向上を図ります。	●業務経緯計画(震災対策編)の改訂 ●業務経緯計画震災対策編の別録の実施(参加者約80名)	67,197	101,303	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					65,193	172,792			
2	10101020 地域防災推進事業	イベント等	自主防災組織の育成、民間企業との連携、防災訓練を通じた防災意識の向上等を通じて、共助(互助)の取組を進め、地域防災力の向上を図ります。	●自主防災組織への支援強化 ●総合防災訓練の実施(H28.8)	5,500	5,500	3	B やや貢献している	III 事業規模拡大
					5,500	5,500			
3	10101030 防災施設整備事業	施設の管理・運営	防災関連の施設、各種情報通信システム等を整備し、市の災害対応力及び地域防災力の向上を図ります。	●同報系防災行政無線の屋外受信機増設及び戸別受信機の更新 ●備蓄計画の改定に向けた案作成	1,640,250	1,362,613	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					716,692	603,653			

達成度4又は達成度3でも一部に大きな遅れがあるもの

必ず、遅れている事務事業名・遅れた理由・遅れている部分を記載する

4 施策の達成状況			
区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由	
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した)		
	B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)		
	C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった)	C	●配下の事務事業の取組のうち、防災対策管理運営事業については、○○の理由から、平成28年度に策定予定であった○○計画を策定することができませんでした。その他の事務事業については、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しました。
	D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)		

【 5 今後の方向性】

5 今後の方向性			
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
7 今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する)	II	(2) 必須入力 ●防犯対策事業については、刑法犯認知件数も年々減少していることから、現在取り組んでいる事業を継続して進めていきます。 ●路上喫煙防止対策事業については、武蔵小杉駅等の拠点駅の賑わいが増えていることから、路上喫煙防止重点区域の新規設定や拡大を検討するなど事業手法等の見直しについて検討していきます。
	II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)		
	III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい)		
	IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)		

⑦ 必須入力 「今後の事業構成の妥当性」

(1) 今後の事業構成の妥当性について4つの区分から選択する。

ポイント 「2 成果指標やその他の成果などの状況と成果の分析」や「4 施策の進捗状況」等を踏まえて、施策の配下の事務事業の構成 (新たな課題に対応するために新規事業の立ち上げ等) や 配下の事務事業の事業手法の見直し などについて、どのようにすべきか区分を選択する。

(2) (1) で選択した区分を選んだ理由を、**様式1**事務事業評価シートの「今後の事業の方向性 (9 ページ参照)」等を参考にする。



変更点 **ポイント** 「5 今後の方向性」について、特に「4 施策の達成状況」が「B」や「C」のものについては、指標等の一部に遅れが見られるものであるため、指標等の成果分析欄で浮き彫りになった課題等に触れながら、その課題を解決するための何らかの改善点を必ず入れ込む。

5 今後の方向性			
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する)	II	●○○○に向けては、現在取り組んでいる事業を継続的に進めるとともに、若い世代に届く効果的な広報の手法等について検討していきます。 ●..... ●.....
	II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)		
	III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい)		
	IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)		

課題解決の方向性を記載

浮き彫りになった課題

指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因を含めて記載)	●○○アンケートについては、若い層の積極的な回答率が低いことから、若い世代に届く効果的な広報の手法等について検討していくが 必要です。 ●.....
--	--

記載に際しての注意事項

✓ **様式4**は公開資料となるため、組織・人員、予算、政策の方向性、将来的な施策運営に影響がある記載（「人員を増加し対応する」、「予算の拡充を検討する」、「制度の拡充を図る」など）は、基本的に入力時点で予算等に反映（確定）されているもの（対外的に出して問題ないもの）に限り入力してください。

○良い事例 「○○の課題があることから、今後課題を整理し、事業手法の見直し等について検討していきます。」

×悪い事例 「○○の課題があることから、今後予算調整の中で事業の拡大を検討します。」

✓ 「サマレービュー」や「予算調整等」などの内部事務手続については、記載を避けるか、他の表現で記載してください。